

[京都大・文]

13整式 $f(x)$ と実数 C が

$$\int_0^x f(y) dy + \int_0^1 (x+y)^2 f(y) dy = x^2 + C$$

を満たすとき、この $f(x)$ と C を求めよ。

14

[東京大・文]

2次以下の整式 $f(x) = ax^2 + bx + c$ に対し、 $S = \int_0^2 |f'(x)| dx$ を考える。

- (1) $f(0) = 0$, $f(2) = 2$ のとき S を a の関数として表せ。
- (2) $f(0) = 0$, $f(2) = 2$ を満たしながら f が変化するとき、 S の最小値を求めよ。

15

[千葉大・文]

a と k を正の実数とする。 $y = \frac{a}{2}x^2$ のグラフを平行移動して得られる放物線 C_1 と $y = -\frac{2}{a}x^2$ のグラフを平行移動して得られる放物線 C_2 が、ともに原点 $O(0, 0)$ で直線 $y = kx$ に接するものとする。原点 O を通り、直線 $y = kx$ に垂直な直線を l とする。放物線 C_1 と直線 l によって囲まれる図形の面積を S_1 、放物線 C_2 と直線 l によって囲まれる図形の面積を S_2 とおき、 $S = S_1 + S_2$ とする。次の問いに答えよ。

- (1) S を a と k を用いて表せ。
- (2) $k = \sqrt{2} - 1$ とする。 S を最小にする a の値と、そのときの S の値を求めよ。

16

[神戸大・理]

$f(x) = x^3 - 3x + 1$, $g(x) = x^2 - 2$ とし, 方程式 $f(x) = 0$ について考える。このとき, 以下のことを示せ。

- (1) $f(x) = 0$ は絶対値が 2 より小さい 3 つの相異なる実数解をもつ。
- (2) α が $f(x) = 0$ の解ならば, $g(\alpha)$ も $f(x) = 0$ の解となる。
- (3) $f(x) = 0$ の解を小さい順に $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3$ とすれば,

$$g(\alpha_1) = \alpha_3, \quad g(\alpha_2) = \alpha_1, \quad g(\alpha_3) = \alpha_2$$

となる。

13

[京都大・文]

まず、 $\int_0^x f(y)dy + \int_0^1 (x+y)^2 f(y)dy = x^2 + C$ を変形して、

$$\int_0^x f(y)dy + x^2 \int_0^1 f(y)dy + 2x \int_0^1 yf(y)dy + \int_0^1 y^2 f(y)dy = x^2 + C$$

$p = \int_0^1 f(y)dy \cdots \cdots \textcircled{1}$, $q = \int_0^1 yf(y)dy \cdots \cdots \textcircled{2}$, $r = \int_0^1 y^2 f(y)dy \cdots \cdots \textcircled{3}$ とおくと、

$$\int_0^x f(y)dy + px^2 + 2qx + r = x^2 + C \cdots \cdots \textcircled{4}$$

④の両辺を x で微分すると、 $f(x) + 2px + 2q = 2x$

$$f(x) = -2(p-1)x - 2q \cdots \cdots \textcircled{5}$$

④に $x=0$ を代入すると、 $r = C \cdots \cdots \textcircled{6}$

①⑤より、 $p = \int_0^1 \{-2(p-1)y - 2q\}dy = -p+1-2q$, $2p+2q=1 \cdots \cdots \textcircled{7}$

②⑤より、 $q = \int_0^1 \{-2(p-1)y^2 - 2qy\}dy = -\frac{2}{3}(p-1) - q$, $p+3q=1 \cdots \cdots \textcircled{8}$

⑦⑧より、 $p=q=\frac{1}{4}$ となり、

$$f(x) = \frac{3}{2}x - \frac{1}{2}$$

③⑥より、 $C = \int_0^1 \left(\frac{3}{2}y^3 - \frac{1}{2}y^2\right)dy = \frac{3}{8} - \frac{1}{6} = \frac{5}{24}$

[解説]

定型的な積分方程式の問題です。 $f(x)$ を 1 次以下の整式として設定し、与えられた式に代入する方法もあります。

14

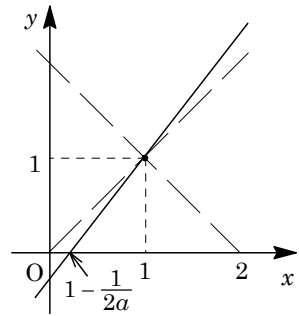
[東京大・文]

(1) $f(x) = ax^2 + bx + c$ に対し, $f(0) = 0$, $f(2) = 2$ より,

$$c = 0, \quad 4a + 2b + c = 2$$

よって, $b = 1 - 2a$ から, $f(x) = ax^2 - (2a - 1)x$

$$f'(x) = 2ax - (2a - 1) = 2a(x - 1) + 1$$

また, $a \neq 0$ のとき, $f'(x) = 0$ とおくと, $x = 1 - \frac{1}{2a}$ これより, $y = f(x)$ のグラフは右図のようになる。(i) $2a \geq 1$ ($a \geq \frac{1}{2}$) のとき

$$\begin{aligned} S &= \int_0^2 |f'(x)| dx = -\int_0^{1-\frac{1}{2a}} f'(x) dx + \int_{1-\frac{1}{2a}}^2 f'(x) dx \\ &= -\left[a(x-1)^2 + x \right]_0^{1-\frac{1}{2a}} + \left[a(x-1)^2 + x \right]_{1-\frac{1}{2a}}^2 \\ &= -a\left(\frac{1}{4a^2} - 1\right) - \left(1 - \frac{1}{2a}\right) + a\left(1 - \frac{1}{4a^2}\right) + \left(1 + \frac{1}{2a}\right) = 2a + \frac{1}{2a} \end{aligned}$$

(ii) $-1 < 2a < 1$ ($-\frac{1}{2} < a < \frac{1}{2}$) のとき

$$S = \int_0^2 |f'(x)| dx = \int_0^2 f'(x) dx = \left[a(x-1)^2 + x \right]_0^2 = 2$$

(iii) $2a \leq -1$ ($a \leq -\frac{1}{2}$) のとき

$$S = \int_0^2 |f'(x)| dx = \int_0^{1-\frac{1}{2a}} f'(x) dx - \int_{1-\frac{1}{2a}}^2 f'(x) dx = -2a - \frac{1}{2a}$$

(2) (i) $a \geq \frac{1}{2}$ のとき 相加平均と相乗平均の関係より,

$$S = 2a + \frac{1}{2a} \geq 2\sqrt{2a \cdot \frac{1}{2a}} = 2$$

等号は $2a = \frac{1}{2a}$ ($a = \frac{1}{2}$) のときに成立する。(ii) $-\frac{1}{2} < a < \frac{1}{2}$ のとき $S = 2$ (iii) $a \leq -\frac{1}{2}$ のとき $a' = -a \geq \frac{1}{2}$ とおくと,

$$S = -2a - \frac{1}{2a} = 2a' + \frac{1}{2a'} \geq 2\sqrt{2a' \cdot \frac{1}{2a'}} = 2$$

等号は $2a' = \frac{1}{2a'}$ ($a = -\frac{1}{2}$) のときに成立する。(i)~(iii)より, S は $-\frac{1}{2} \leq a \leq \frac{1}{2}$ のとき, 最小値 2 をとる。

[解説]

定積分の計算問題ですが, 三角形や台形の面積計算と読み直しても可です。

[千葉大・文]

15

(1) 原点を通る放物線 C_1 の方程式を、 $y = \frac{a}{2}x^2 + px$ と

おくと、 $y' = ax + p$ となる。

条件より、 $x=0$ のとき $y' = k$ から、 $p = k$ となり、

$$y = \frac{a}{2}x^2 + kx \cdots \cdots \textcircled{1}$$

また、同様にして、原点を通る放物線 C_2 の方程式を、 $y = -\frac{2}{a}x^2 + qx$ とおくと、 $y' = -\frac{4}{a}x + q$ となる。

条件より、 $x=0$ のとき $y' = k$ から、 $q = k$ となり、

$$y = -\frac{2}{a}x^2 + kx \cdots \cdots \textcircled{2}$$

さらに、直線 $y = kx$ に垂直な直線 l は、 $y = -\frac{1}{k}x \cdots \cdots \textcircled{3}$ である。

①③の交点 $x = \alpha \neq 0$ は、 $\frac{a}{2}x^2 + kx = -\frac{1}{k}x$ から、 $\alpha = -\frac{2}{a}\left(k + \frac{1}{k}\right)$ となり、

$$S_1 = \int_{\alpha}^0 \left(-\frac{1}{k}x - \frac{a}{2}x^2 - kx\right) dx = -\frac{a}{2} \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) (-\alpha)^3 = \frac{2}{3a^2} \left(k + \frac{1}{k}\right)^3$$

②③の交点 $x = \beta \neq 0$ は、 $-\frac{2}{a}x^2 + kx = -\frac{1}{k}x$ から、 $\beta = \frac{a}{2}\left(k + \frac{1}{k}\right)$ となり、

$$S_2 = \int_0^{\beta} \left(-\frac{2}{a}x^2 + kx + \frac{1}{k}x\right) dx = -\frac{2}{a} \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) \beta^3 = \frac{a^2}{24} \left(k + \frac{1}{k}\right)^3$$

よって、 $S = S_1 + S_2 = \frac{2}{3a^2} \left(k + \frac{1}{k}\right)^3 + \frac{a^2}{24} \left(k + \frac{1}{k}\right)^3 = \frac{1}{24} \left(a^2 + \frac{16}{a^2}\right) \left(k + \frac{1}{k}\right)^3$

(2) $k = \sqrt{2} - 1$ のとき、 $k + \frac{1}{k} = \sqrt{2} - 1 + \sqrt{2} + 1 = 2\sqrt{2}$ より、

$$S = \frac{1}{24} \left(a^2 + \frac{16}{a^2}\right) (2\sqrt{2})^3 = \frac{2\sqrt{2}}{3} \left(a^2 + \frac{16}{a^2}\right)$$

ここで、 $a^2 > 0$ より、相加平均と相乗平均の関係を用いると、

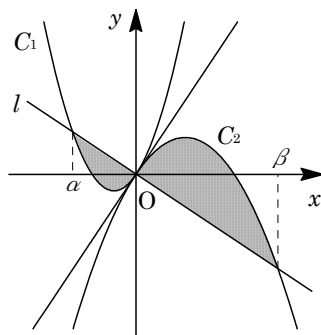
$$a^2 + \frac{16}{a^2} \geq 2\sqrt{a^2 \cdot \frac{16}{a^2}} = 8$$

なお、等号は、 $a^2 = \frac{16}{a^2}$ すなわち $a = 2$ のときに成立し、このとき S は最小値

$$\frac{2\sqrt{2}}{3} \cdot 8 = \frac{16\sqrt{2}}{3} \text{ をとる。}$$

[解説]

放物線とその法線で囲まれる部分の面積について、その最小値を求めるという頻出問題です。



16

[神戸大・理]

(1) $f(x) = x^3 - 3x + 1$ に対して、

$$\begin{aligned} f'(x) &= 3x^2 - 3 \\ &= 3(x-1)(x+1) \end{aligned}$$

すると、 $-2 \leq x \leq 2$ における

$f(x)$ の増減は右表のようになり、方程式 $f(x) = 0$ の実数解は、 $-2 < x < -1$ 、 $-1 < x < 1$ 、 $1 < x < 2$ に 1 つずつある。

すなわち、 $f(x) = 0$ は、絶対値が 2 より小さい 3 つの相異なる実数解をもつ。(2) α は $f(x) = 0$ の解なので、 $\alpha^3 - 3\alpha + 1 = 0$ から、 $\alpha^3 = 3\alpha - 1 \cdots \cdots (*)$ また、 $g(x) = x^2 - 2$ から、 $g(\alpha) = \alpha^2 - 2$ となり、(*)より、

$$\begin{aligned} f(g(\alpha)) &= f(\alpha^2 - 2) = (\alpha^2 - 2)^3 - 3(\alpha^2 - 2) + 1 = \alpha^6 - 6\alpha^4 + 9\alpha^2 - 1 \\ &= (3\alpha - 1)^2 - 6\alpha(3\alpha - 1) + 9\alpha^2 - 1 \\ &= 9\alpha^2 - 6\alpha + 1 - 18\alpha^2 + 6\alpha + 9\alpha^2 - 1 = 0 \end{aligned}$$

よって、 $g(\alpha)$ も $f(x) = 0$ の解である。(3) $f(-\sqrt{3}) = f(0) = f(\sqrt{3}) = 1$ より、 $f(x) = 0$ の解を $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3$ ($\alpha_1 < \alpha_2 < \alpha_3$) としたとき、

$$-2 < \alpha_1 < -\sqrt{3}, \quad 0 < \alpha_2 < 1, \quad 1 < \alpha_3 < \sqrt{3}$$

すると、 $g(x) = x^2 - 2$ より、

$$1 < g(\alpha_1) < 2, \quad -2 < g(\alpha_2) < -1, \quad -1 < g(\alpha_3) < 1$$

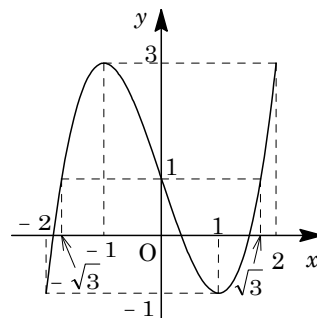
よって、 $g(\alpha_2) < g(\alpha_3) < g(\alpha_1)$ となる。

また、(2)から、 $g(\alpha_1), g(\alpha_2), g(\alpha_3)$ も $f(x) = 0$ の解であることより、

$$\{\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3\} = \{g(\alpha_1), g(\alpha_2), g(\alpha_3)\}$$

以上より、 $g(\alpha_1) = \alpha_3, g(\alpha_2) = \alpha_1, g(\alpha_3) = \alpha_2$ である。

x	-2	⋯	-1	⋯	1	⋯	2
$f'(x)$		+	0	-	0	+	
$f(x)$	-1	↗	3	↘	-1	↗	3



[解説]

グラフの概形から考えると、(3)での $x = \pm\sqrt{3}$ を用いた解のとりうる範囲の評価は、難しくはないでしょう。なお、記憶をたどって調べたところ、1997年に早大・理工で本問と同じ問題が出ています。